

みどりの 林東北

MIDORINO TOHOKU

Vol.
205

東北森林管理局



青森県深浦町(十二湖「青池」) [提供: 津軽森林管理署]

特集

令和2年度 地域管理経営計画等の策定について [計画課]

CONTENTS

■美しい森林づくり

村山市「ふるさと教育の森」の取組

～中学生が植林を通じて森林の大切さを学び、郷土愛を育む～・・・ [山形森林管理署]

■我が署の名所

白神山地・暗門の滝自然観察教育林・・・・・・・・・・・・・・・・ [津軽森林管理署]



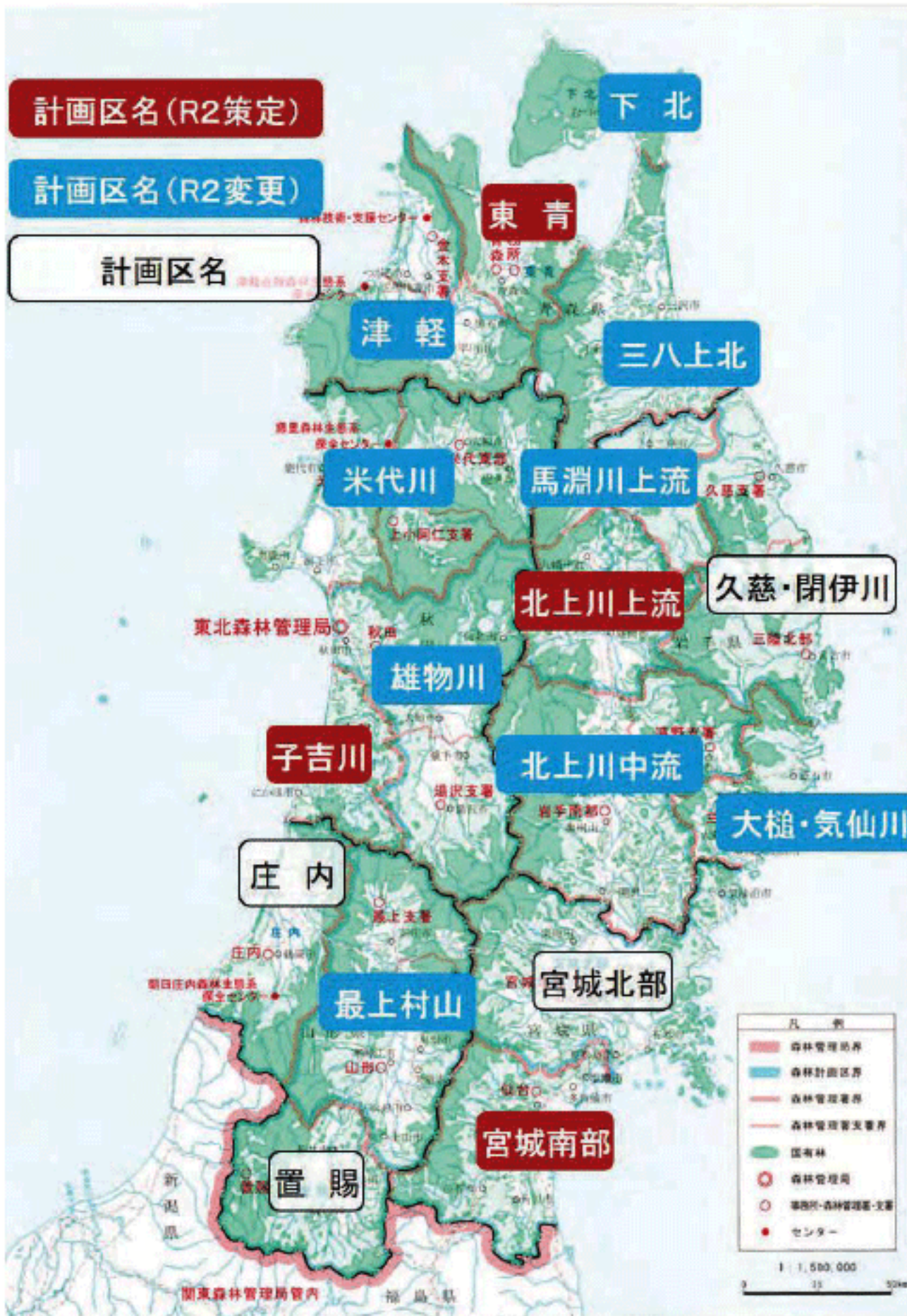
特集



令和2年度

地域管理経営計画等の策定について

計画課



策定又は変更した森林計画区

東北森林管理局では、東北5県の17森林計画区別に地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画を策定しています。これらは、国有林野の管理経営に関する法律（昭和26年法律246号）に基づき定められる国有林野の管理経営に関する基本計画に即して策定される計画となっています。

地域管理経営計画は森林計画区ごとに国有林野の管理経営に関する基本的な事項を定めた計画であり、この計画に即して国有林野施業実施計画を策定します。国有林野施業実施計画は、森林計画区ごとに具体的な国有林野の伐採、造林等の箇所や量

を定めた計画となっております。

令和2年度は、東青、北上川上流、宮城南部、子吉川の4森林計画区で計画を策定し、津軽、下北、三八上北、馬淵川上流、大槌・気仙川、北上川中流、米代川、雄物川、最上村山の9森

林計画区で計画の変更を行いました（津軽及び米代川は国有林野施業実施計画のみの変更）。

計画の策定及び変更に当たっては、地域住民からのご意見・ご要望を伺うための住民懇談会を行いました。なお、研究



住民懇談会の様子（北上川上流森林計画区）

者、林業関係者、報道関係者、公募委員等により構成される森林計画等に関する検討会からご意見を伺う現地検討会については、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて令和2年度の開催を中止しました。

住民懇談会については、令和元年11月から令和2年1月にかけて東青、北上川上流、宮城南

部、子吉川の各森林計画区で開催しました。住民懇談会では、森林計画区の概況や次期計画の策定に当たった基本方針を説明した後、意見交換を行いました。参加者からは、「水源林の確保や自然災害に強い森林づくりに向けた施策をしてほしい」、「国有林を、レクリエーションや森林環境教育に活用したい」、「国有林の広葉樹の取扱いを増やして欲しい」、「林道等の整備をお願いしたい」、「民有林でも50年生以上の林が多くなっており、再造林が課題となっていることから、対策などについて国有林とも情報交換していきたい」等のご意見・ご要望が寄せられました。

住民懇談会を通じて得られた貴重なご意見等を参考に計画書案を作成し、30日間の公告・縦覧後の令和3年3月12日に、森林計画等に関する検討会委員からご意見を伺うため「森林計画等に関する検討会」を開催しました。今年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況に鑑みて書面での開催となりました。

委員からは、「現在ある育成林の規模を将来どの程度にするのか」といった質問が寄せられるとともに、「主伐・再造林をする意味について、一般向けにわかりやすく説明する機会をもっと少し増やすようにしてはどうか」、「育成天然林を奥山だけでなく人里近くにも増やす取組をしていただきたい」等のご意見をいただきましたが、計画案は了承され、令和3年3月29日に公表しました。

令和3年度は、津軽（青森県）、久慈・閉伊川（岩手県）、置賜（山形県）の3森林計画区において、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の策定を予定しています。





美しい森林づくり

村山市「ふるさと教育の森」の取組

中学生が植林を通じて森林の大切さを学び、郷土愛を育む

山形森林管理署

「ふるさと教育の森」の歴史

山形森林管理署と村山市は昭和57年度から分収造林契約を毎年締結しており、この分収造林契約箇所をフィールドとして、市内の中学生を対象にした「ふるさと教育の森」の開催に当署、市、県及び地域の関係者が協働して取り組んでいます。

この取組は、昭和57年から令和元年度まで毎年開催されてきましたが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。現在、40回目の開催に向けて関係者が準備を行っています。

実施内容としては、開催当初か



「ふるさと教育の森」開会式

らスギの植栽をメインに実施してきましたが、平成13年度からは植栽に加え、地域の環境教育の関係者を講師とした森林散策、木工教室や森林教室をプログラムに追加して、午前中に植栽体験、午後に森林教室等を開催しています。

村山市内の全中学生を対象に、3日間の開催期間中に約600名の生徒が参加します。また、事務局や指導者等も約200名が参加して、生徒の指導に協力して取り組んでいます。



苗木と農機を持って植栽箇所まで移動

これまでの取組による植林面積は25ha、植栽本数66,796本、下刈面積149ha、参加者は36,822人に及びています。

また、「ふるさと教育の森」は

村山市教育振興基本計画に位置付けられており、開催目的として森の中で生徒が自ら苗木を植え、育てるといふ体験学習を通じて、自然や森林の大切さを学び、ふるさとに対する愛着心を育むとともに、体験の中で「いきる力」を育てることをねらいとして、多数の関係者が参加して開催される一大イベントに発展しています。

歴史の重み

約40年間に渡り実施されている取組のため、親子2代に渡る参加者も多数見受けられます。また、木工体験の運営を担う村山産業高等学校の生徒の多くが「ふるさと教育の森」のOB、OGとなっています。



協力して植栽

います。

当署の職員の中に、この取組への参加が就職先を考える際のヒントとなったとの事例もあることから、森林・林業と中学生を結ぶ最初の接点として、林業等に携わる人材の育成にも貢献していると考えられます。

また、この取組は多方面から評価をいただいております。平成17年に分収造林事業の協力者に対する東北森林管理局局長表彰、平成28年度の第40回全国育樹祭で国土緑化推進機構理事長の感謝状、平成29年度に活動を取りまとめた映像教材「森は私たちの先生」が全国自作視聴覚教材コンクールの優秀賞を受賞しています。



植栽したスギと記念撮影

今後も「ふるさと教育の森」の活動が3世代、4世代に渡り発展するように、職員一人一人がスキルアップに励み、中学生の旺盛な探究心に応えてまいります。



春を告げる花

津軽森林管理署金木支署 奈良 真吾

4月から植物関係に関するコラムを担当します津軽森林管理署金木支署の奈良です。よろしくお願いします。

早速ですが皆さんは春といえばどのような花を思い浮かべますか。

ウメ、サクラ、フクジュソウ、チューリップ等それぞれに思うところがあるのではないのでしょうか。

今回ご紹介するのは、早春に最も早く咲く花の一つ「マンサク」です。春真っ先に「^ま先^さず咲く」ことから、転じて「マンサク」といわれています。また、枝いっぱい黄色い花を咲かせる姿からその年の豊作を占ったとされ豊年満作に通じる縁起の良い植物とされています。東北地方では、主に葉の先が丸いマルバマンサクが自生し、宮城県以南太平洋側ではマンサクが自生しています。

残雪期の肌寒い中で咲き始めるマルバマンサクを観察すると、4枚のリボン状の花びらが内側にカールし花芽に納められています①。そして、カールした花びらが少しずつ伸び始め②、伸びきると満開です③。花は甘い香りがするそうですが、花粉症の私の鼻では感じるできませんでした。

次いで小さな花々が道端で春を告げています。ちょっと注意しながら探してみると見つけることができるのが、ヒメオドリコソウ④やオオイヌノフグリ⑤です。一度は目にしたことがあると思います。また、田の畔や河川敷ではあちこちでフキノトウ⑥が見られます。フキノトウの香りを嗅ぐと、長い冬が終わり待ちわびていた春を感じさせてくれます。もうすぐ春爛漫です。



①マルバマンサクつぼみ



②花びらが伸びるところ



③満開



④ヒメオドリコソウ



⑤オオイヌノフグリ



⑥フキノトウ



INFORMATION

新任者 略歴紹介

令和3年
4月1日付け

総務課長



いがらし かずと
五十嵐 和人
(秋田県)

昭和59.4 秋田県作葉課
平成24.4 東北局津軽森林管理署次長
平成28.4 関東局白河支署長
平成31.4 東北局資源活用課長

企画調整課長



さいとう まさこ
齊藤 政子
(新潟県)

平成20.4 林野庁国有林野部経営企画課
平成26.4 林野庁森林整備部研究指導課
百穂班特定母樹係長
平成29.4 林野庁国有林野部経営企画課
経営計画官
平成31.4 林野庁国有林野部経営企画課付
(市民交流派遣(物林株式会社))

森林整備課長



さとう てるひろ
佐藤 輝寛
(秋田県)

昭和58.4 秋田県監査課
平成24.4 東北局岩手南部森林管理署次長
平成27.4 東北局企画調整課監査官
平成30.11 東北局湯沢支署長

資源活用課長



ごとう さとし
後藤 敏
(秋田県)

昭和57.4 秋田県計画課
平成26.4 東北局置賜森林管理署次長
平成28.4 東北局秋田森林管理署次長
平成31.4 東北局上小阿仁支署長

藤里森林生態系 保全センター所長



ひやま とおひろ
畠山 達
(秋田県)

昭和56.4 秋田県造林課
平成27.4 東北局由利森林管理署総括事務管理官
平成29.4 東北局米代西部森林管理署次長
平成30.11 東北局企画調整課監査官

朝日庄内森林生態系 保全センター所長



なかじま はじめ
中嶋 一
(秋田県)

昭和57.4 秋田県作葉課
平成26.4 東北局下北森林管理署次長
平成28.4 東北局仙台森林管理署次長
平成30.4 東北局森林整備部企画官

森林技術・ 支援センター所長



そうま かつのり
相馬 勝則
(青森県)

昭和56.4 青森県人事課
平成27.7 東北局青森事務所副所長
平成29.4 東北局計画保全部流域管理指導官
令和2.4 東北局青森森林管理署次長

金木支署長



しろと みくお
白戸 副康
(青森県)

昭和56.4 青森県人事課
平成27.7 東北局企画調整課監査官
平成28.4 東北局経理課長
平成31.4 東北局森林技術・
支援センター所長

遠野支署長



やまだ とおひろ
山田 亨
(埼玉県)

平成7.4 北海道庁林業振興課資源活用センター
平成26.4 林野庁林政部木材産業課
課長補佐(流通班担当)
平成29.4 独法)農林漁業信用基金総務部
情報分析班(林業部保証課担当)
平成31.4 環境省自然環境局自然環境計画課
生物多様性戦略推進室室長補佐

宮城北部森林管理署長



せんくや まこと
仙北谷 誠
(秋田県)

昭和56.4 秋田県監査課
平成26.4 東北局総務課企画官
平成28.4 東北局上小阿仁支署長
平成31.4 東北局森林整備課長

仙台森林管理署長



しみず しゅんじ
清水 俊二
(神奈川県)

平成3.4 林野庁管理部管理課
平成25.4 独法)森林総合研究所林木育種センター
海外協力部海外協力課長
平成27.4 九州局沖縄森林管理署長
平成30.1 関東局東京神奈川森林管理署長

上小阿仁支署長



すがわら けんいち
菅原 健一
(秋田県)

昭和57.4 青森県企画調整課
平成26.4 東北局計画保全部流域管理指導官
平成29.4 東北局庄内森林管理署次長
令和2.4 東北局仙台森林管理署次長

米代西部森林管理署長



こむかい かつゆき
小向 克之
(岩手県)

昭和60.4 秋田県造林課
平成26.11 東北局久慈支署長
平成28.10 北海道局胆振東部森林管理署長
平成31.4 北海道局留萌北部森林管理署長

湯沢支署長



いずみ みつひろ
泉 光博
(岩手県)

昭和63.4 青森県造林課
平成26.4 環境省自然環境局
国立公園課課長補佐
平成28.4 東北局森林生態系保全センター所長
平成31.4 東北局宮城北部森林管理署次長

山形森林管理署長



ますだ けんじ
益田 健太
(埼玉県)

平成4.4 林野庁業務部経営企画課
平成26.8 林野庁森林整備部研究指導課
課長補佐(技術開発班担当)
平成29.4 九州局大分西部森林管理署長



重文千葉家の活用を 考える会

「みんなで学ぶ 地域の歴史」

岩手南部森林管理署
遠野支署



概念図を用いて山の利用を説明する野木支署長

2月28日(日)、遠野市綾織地区センター会議室で、重文千葉家の活用を考える会の学習会「みんなで学ぶ地域の歴史」が開催され、当支署の野木宏祐支署長が「遠野地域の山の利用の歴史など」という題材で講義をしました。千葉家は、江戸時代後期に建てられた大型の曲がり屋で、国の重要文化財に指定されており、平成28年から「世紀の大修理」が始まり、令和10年に再公開される予定です。考える会は、再公開に向けて千葉家の活用や地域づくりを考えて実践活動を行っています。今回の学習会もその一環として開催されたものです。



修復工事中の千葉家



千葉家(修復工事前)

講義の中で野木支署長は、近世から現代に至る遠野地域における山の利用の変遷を、歴史資料や植生図等を元に作成した重層的な概念図や図表を使って説明し、千葉家のある綾織地区では、家畜の放牧や採草に利用されていた草地の多くが、明治以降、官有山林原野を経て御料林に編入され、やがて草地としての利用が制限されて人工造林が行われたこと、御料林の造林に際して、草地の野焼きの延焼を防止するために築かれた防火土塁が、今も国有林の官民境界として延々と残っていること、遠野

物語を読み込むと、怪異現象などのエピソードに隠れている遠野の人々の山の利用が読みとれることなどが紹介されました。

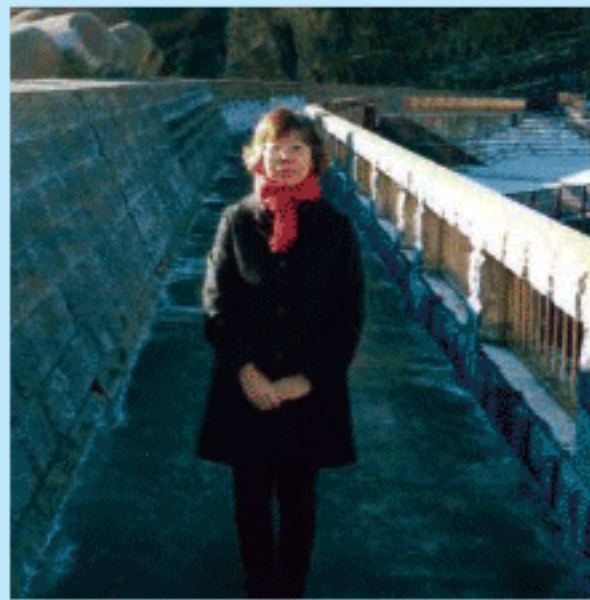
そして、現在は市の所有となった千葉家の広大な裏山については、「天然林と人工林のバランスが良い。山菜、きのこ、木の実、つるなどの利用も視野にいれ、今後の千葉家を活用方向と調和した形で食材や素材の供給源として活用してはどうか。」と助言していました。当日は、約20名ほどの会員が聴講にきていましたが講義は好評で、「遠野の山の歴史について具体的な解説を聞いて、地域への理解が深まった」などの感想が聞かれました。



千葉家の裏山調査

「国有林モニターに参加して」

青森県おいらせ町 袴田 幸子



スギのコンテナ苗を植える作業、穴掘りもあつけないほど簡単。子どもが小さい時に植林した事を思い出しました。家の近くに大型ショッピングセンターができ、その周りに木を植えるイベントがあり、子供会で参加したのでした。今ではその木々は大きく成長し、四季折々の風景を見せてくれ、月日の流れを感じます。家庭菜園をし断捨離しながら過ごしていますが、退職して四年、野菜はなんとか収穫にこぎつけるようにな

りましたが、断捨離は思い出が蘇りなかなか進みません。今は、欲しい物ではなく必要な物と、買ひ物は慎重になりました。

モニター実施計画を見た時、現地見学会は他県になるかもとコロナ感染症のことが心配になり、ちょっと不安になりましたが、第1回目は青森県でしたので参加。行ってみれば、知っている鳥温泉の近くでした。

見学①地すべり防止対策工事
大規模な工事で驚きました。毎年のように全国各地で自然災害が頻発し被害が発生しているの、労力施工費がかかりますが予算を獲得し続けて欲しいです。集水井工は圧巻でした。じっくり見たかったです、到着した時は雨でとても残念でした。

見学②一貫作業システム
多様な林業機械の作業を見ることのできる圧倒されました。行程を省力化、作業コストを縮減し、利用促進

が確立されていけばと思います。

第2回現地見学会は岩手県。1回
目の現地見学会での感染予防対策がしっかり行われていたので、安心して参加。見学会の前日、ローカル線で両側に紅葉を見ながら南下。盛岡駅前に宿泊して新花巻駅へ。

見学①遠野支署の概要と庁舎見学
東北森林管理局管内の中で古い庁舎ということですが、内装や事務机などに木材を使用していて羨ましい限りです。林野10月号で木のススメを特集していましたが、幼少期から木材や木製品とふれあう教育はほとんど広がってほしいですし、大人になっても同じだと思えます。

見学②林道の維持修繕の取り組み
観測史上1位を更新する大雨が発生。岩手県でも平成28年の台風10号で浸水被害、土石流フェンス、コンクリートえん堤工の設置、林道の保護、鉄鋼スラグを路盤材として活用

しコスト縮減、利点課題ありということですが、役立つと期待します。

見学③シカの森林被害と防止対策・保護林

くくりワナと囲いワナの実演では保護と捕獲で苦労していることを知ることが出来ました。市民参加のミスナラの植樹ですが、保護チューブの劣化と高さの違いのあるミスナラを見て以前から行われていると実感しました。国有林の中を行くバスでは気付きませんでした。帰りの車窓から紅葉の中にミスナラがあっちなもこっちなにも、と目に入り胸が熱くなりました。

毎月送付してもらっている資料、現地見学会での体験を活かし、祖父や父が手入れしてきた山林を県外で暮らす子どもにもどう引き継ぐか模索中です。



蔵王と水と、時々、ラーメン



仙台森林管理署 川崎森林事務所森林官 橋本 敏之



蔵王山頂レストハウス駐車場から見える豊海

私の勤務する川崎森林事務所は、仙台市中心部から車で国道286号線を山形方面へ1時間ほど走った川崎町にあり、宮城県南西部の川崎町と村田町の約9,300haの国有林を管轄しています。川崎町は、宮城県と山形県の県境に連なる雄大な蔵王連峰に代表される自然豊かなところで、国営みちのく湖畔公園、青根温泉、我々温泉、みやぎ蔵王センターメリースキー場など自然の恵みを満喫できるスポットが数多くあり、宮城県内はもちろん近県からの観光客も多く、自然を愛する人たちのオアシスとなっています。川崎町には「仙台市のみずがめ」と

称される釜房ダム、村田町には同町を言む3町の生活を支える村田ダムがあり、村田ダムの上流域に位置する約800haの森林は「谷山水源の森」として平成7年8月に林野庁が選定した「水源の森百選」にも選定されるほど、蔵王からのきれいな水に恵まれた地域でもあります。そばやラーメンを提供する店が多いのも川崎町の特徴です。町民だけでなく、多くの観光客に「口福」をもたらしてくれるのも、蔵王の恵みのおかげなのかもしれません。かくゆう私もラーメンが大好きで、川崎町内のお店を食べ歩きました。昔ながらの中華そば、濃厚な辛みそラーメン、ピリ辛具沢山なあんかけラーメンなどの店ごとのオリジナリティに富んだラーメンは、どれも甲乙付けがたく、赴任し



国有林の現場業務中发现した美しい紅葉

て3年目の今でも迷ってしまうほどです。当事務所管内の国有林の名所といえば、やはり御釜です。御釜付近の国有林には行政機関や大学の火山観測等の施設が複数あるため、現地調査へ向かうと、馬の背登山道で多くの登山客とすれ違います。沢山の方と挨拶を交わし、中には「お疲れさまです」とねぎらいの言葉をかけて下さる方やヘルメットや腰鉈等の装備を見て珍しそうに声をかけてくる方もいます。国有林の現場業務では、人のいないところで黙々と作業することが多いので、御釜付近を歩いて挨拶を交わすと、業務を忘れて登山客の一人になったような楽しく豊かな気持ちになります。蔵王の山々がこれから先も国民のみならずから愛されるような美しい姿でいられるように、業務に取り組みんでいきたいと思っています。



雪の残る御釜 R2.5.11

我が署の名所



白神山地・暗門の滝

自然観察教育林

【暗門の滝溪谷ルート】

白神山地・暗門の滝自然観察教育林は、弘前市内から車で約一時間。白神山地世界遺産地域の北東側に位置し、遺産地域の緩衝地域に設定されております。周辺は、深く切り立った溪谷の地形となっていて、新緑から紅葉まで素晴らしい景観が楽しめます。

また、このルートは上級者のコース。自信がある人向けでしっかりした装備が必要で、ガイドの同行を推奨しております。



暗門の滝溪谷ルート

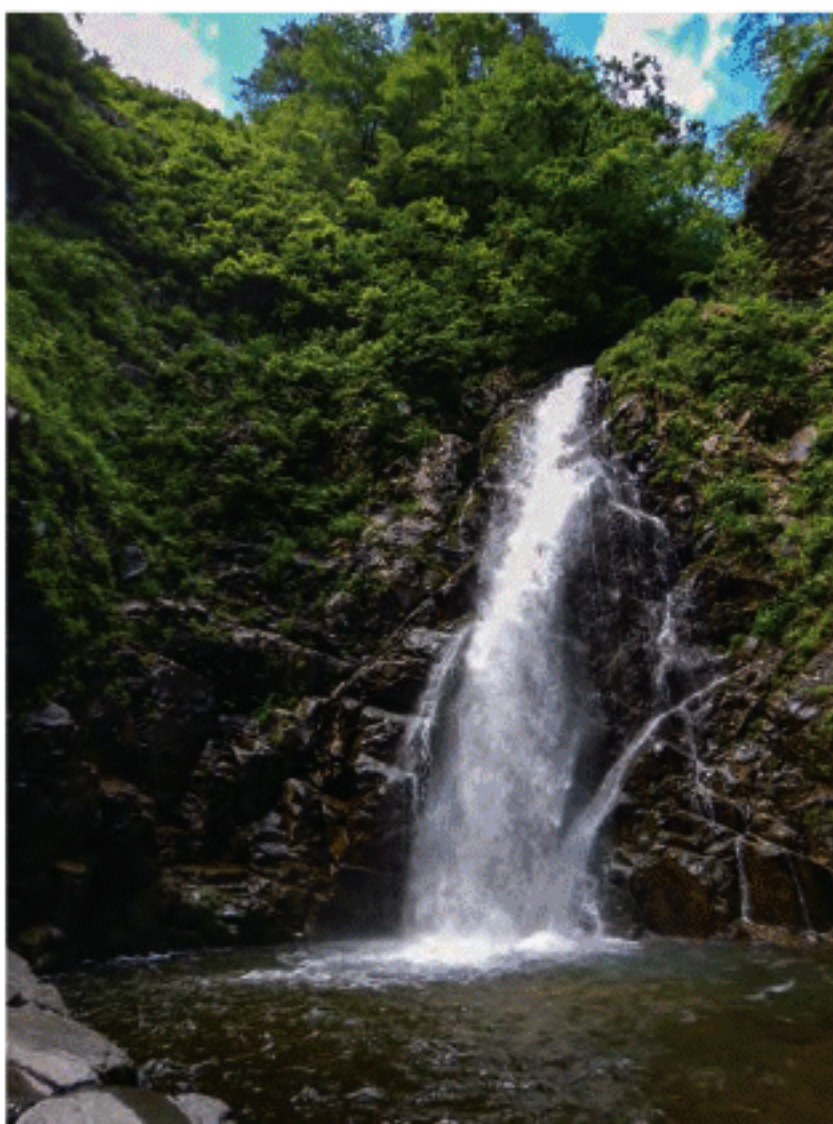
津軽森林管理署管内

青森県中津軽郡西目屋村

秘境の地にある三つの滝を訪ね、白神山地の奥深さを感じる事ができます。降水、増水時は通行止めになります。往復 約5キロメートル。

【ブナ林散策道】

歩道や階段が整備されていて、老若男女が気軽に散策できるコースです。自分のペースでゆっくり散策でき、新緑から紅葉まで白神山地のブナ林を満喫できる場所です。一周 約2キロメートル。

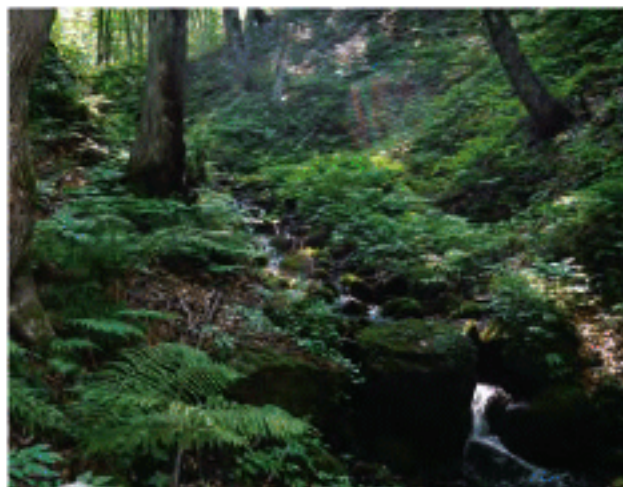


暗門の滝 第一の滝



津軽森林管理署

〒036-8101 青森県弘前市大字豊田2-4
TEL 0172-27-2800 FAX 0172-27-0733



ブナ林散策道

